

幼稚園における子育て支援活動の現状と課題（1）

○西本絹子
(高崎健康福祉大学)

吉川はる奈
(埼玉大学)

【問題と目的】現在、幼稚園が地域の子育て支援の機能を果たす役割が期待されている。幼児教育の場という専門性や特色を生かしながら、地域の実情に合わせ、子育て支援にいかに関与し、どんなサービスを提供していくかに関しては、今後さらに取り組みを重ね検討されていくべき段階にある。

そこで平成13・14年度の2年間に渡り、P自治体において、公立幼稚園数園を指定園とし、「幼稚園における子育て支援活動推進事業」が試行的に実施された(図1)。筆者らはそのうち③に関わり、各々が一つの園に継続的に「子育て支援カウンセラー」として位置づけ、活動を行った。本研究では、活動内容を整理することにより、それぞれの園の特色に応じた子育て支援のニーズの特徴を分析し、心理職としてどのように効果的な支援を果たし得るかについて考察する。

【方法】1、園の環境

P区は都心部にあり、0歳～14歳の子どもの数は65歳以上の高齢者人口に比べて非常に少ない(区全体の人口比ではそれぞれ約10%と20%)。子どもの教育に対する住民の意識は総じて大変高いと言われる。A園は、P区内でもより都心に近く、社寺・学校が数多く集中し、有名企業の社屋・高層マンションが立ち並ぶ大通りの裏に、高級住宅地と昔ながらの住宅地区も近在する環境にある。安心して子どもが遊べる場所が少なく、高層マンションの核家族、社宅・転勤族が多い。

2、園の状況

クラス：4歳児・5歳児クラス(1つずつ)にそれぞれ約20名在籍。保育形態：自由保育が中心。

3、活動の概要：心理士による子育て相談を担当する

<図1 事業全体の概要>

①施設開放：対未就園児や教育時間終了後の園舎園庭開放
②親子交流活動：保育参観日や行事の際の保育参加
③子育て相談：心理士による個別相談・講演会・事例研究
④子育て支援講座：専門家・地域の人材による講話
⑤預かり保育：教育時間終了後の保育
⑥地域交流活動：地域の高齢者・障害者サークルとの交流
⑦子育てサークルの活動支援
⑧子育て情報の発信：子育て情報誌の発行

カウンセラーとして1年に9回の活動を実施した。その内容は図2・3に示す。活動形態はあらかじめ予定したものではなく、時期、親子の状況、親と教諭のニーズを考慮に入れながら、園長・教諭らと随時相談して決定した。

【結果】

1、1年目

カウンセリング 在園児に関する相談よりも、母親自身の悩みや、同居する親・夫との葛藤、他のきょうだいや親戚の子どもに関する相談が多い。家族の中や親同士、地域の間関係、きょうだい直接所属する場(小学校など)のなかでは未解決の問題が持ち込まれた。ケースによっては園長と相談しながら、園長から地区の保健師へ連絡をとる・自助グループの紹介・医療機関受診を勧めた。

グループ討議 細かい悩みが多く出されていたが、回数を重ねるうちに参加者が減少した。幼少の弟妹を抱える親にとって出席しやすい条件・日程調整の元で、親にとってより切実で魅力的なテーマの設定が求められた。専門家によるプログラムの限界も指摘できる。

コンサルテーション 5歳児クラス；教諭が親同士の関係を調整する役割を求められること、親を支えることの困難さについて。4歳児クラス；衝動性の高い子ども、指示されるまで動けない子どもなどについて。

2、2年目

カウンセリングとグループ討議 意図的に両者を減らし、コンサルテーションに振り向けた。グループ討議では発達障害児が複数入園し、発達の問題について忌憚ない話し合いがなされた。

コンサルテーション クラスの子どもに関する問題状況が急増したため保育コンサルテーションを継続して行った。

あるケースでは教諭からの問題意識を受けてコンサルテーションにおいて検討し、カウンセリングで親との個別の相談を行い、グループ討議でいろいろな母親が育児の悩みを話すなかで、親が率直に心情を吐露し、子どもの問題を柔軟に受け止め始める様子が認めら

れ、関係者が認識を共通にしていくなかで、専門機関と連携し、保育が円滑に進行し始めた。問題解決の流れは図4に示す。(注) 具体的な事例は発表時に紹介する。

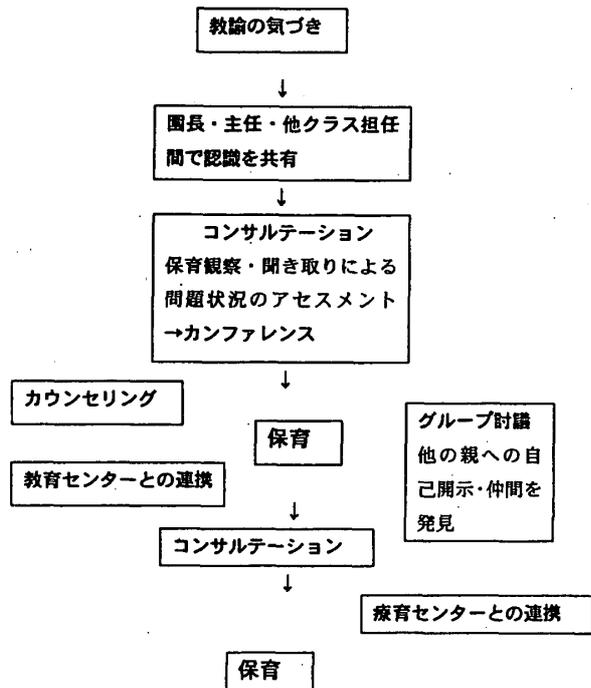
【考察】 1、支援ニーズの特徴

・親からの相談ニーズは、現在園に在籍する子どもの悩みというより、幼稚園就園までに溜まっている他の家族の問題や親自身の問題が多い。

・教諭へのコンサルテーションでは、浜谷 (2002) による支援の分類の軸を用いれば、次のような支援ニーズと効果があったと思われる。

a 保育実践への支援；子どもの問題状況の整理とその保育対処/c 保護者との関係作りへの支援；家庭の問題の大きい子どもへの対応/d 専門機関との連携への支援/f 保育者の力量形成への支援/g 保育者の心理的安定への支援。

a 子どもの問題状況とはADHD、LDタイプの認知障害、高機能広汎性発達障害であり、気になる子ども像を発達の始点から評価・解釈し整理することで保育の方向付けを行った。家庭の問題とは親の精神疾患、特殊な養育環境からの心理的虐待、ネグレクトを疑う養育方針などであった。gに関しては、最後のコンサルテーションにおいて、ある教諭により「経験したことのない親の問題に直面し、信じられないことがいろいろあり、かたや学級経営もあって大変だったが、す



っきりして、エネルギーを持って子どもたちと向き合えた」との感想をいただいた。

2、心理職としてどのように効果的な支援を果たすか

活動開始当初、園に参入する心理職という位置づけは、園の教諭と心理士の双方にとって戸惑いが多かった。「親のカウンセリングを園で行う」というオーソドックスな形からスタートしたが、単発にすぎない心理士による園児と保護者への子育て支援としては、最も費用対効果の高いものとして、教諭へのコンサルテーションを中心業務としたい、という意向を1年目に折々に園長に申し入れた。その結果、2年目はコンサルテーションを中心とし、個別相談やグループ討議を必要に応じてそれに絡める形をとり、この形態の意義は最終的には園に理解されたと思われる。

【結語】 幼稚園は、現在最も子育て不安が高いと言われる専業主婦とその子どもが、初めて集団の場に出ることを受け止める機関である。その意味では家庭や育児の問題、親の精神的な問題、子どもの発達育児の問題などが就園と同時に噴出しやすい場である。心理職が子育て支援に参与するとすれば、幼稚園教育の文脈に即した心理学的な視点の提供と同時に、直接の親支援よりも教諭の支援を側面から支援する、という位置づけの意味が大きいと思われる。

<図2 子育て相談活動の形態と内容 平成13年度>

活動形態	内容	回
カウンセリング (個別相談)	母親自身の悩み。きょうだいについて。祖父母との確執。	3
グループ討議	叱り方。育児方針。祖父母の育児の考え方との折り合いのつけ方。性別の育て方の違い、ジェンダーについて。	4
講演会	幼児期に大切にしたいこと	1
コンサルテーション (保育観察を含む)	気になる子ども。親との関係。幼稚園の子育て支援の役割。	1

<図3 子育て相談活動の形態と内容 平成14年度>

活動形態	内容	回
カウンセリング (個別相談)	発達の原因になる子ども、LD傾向のきょうだいについて。親戚の被虐待児への対応とわが子との関係。	1
グループ討議	子どもの自己主張と自己形成。発達に問題のある子どもの育児・教育。	2
講演会	子どもを受容するとは。	1
コンサルテーション (保育観察を含む)	発達障害児・気になる子ども・精神疾患のある親・特殊な養育方針・マルチトリートメントの疑い。	5